

子どもや養育者のリアルな声

- *対象者 登録者児童69名
年間延参加者278人
- *場所 八千代市立村上北小学校
- *開設日 年間121日
- *協働 八千代市元氣子ども課
- *応援者 村上北小学校、将棋・読み聞かせ・カードボードゲーム・環境NPO団体・子どもNPO団体の地域ボランティア(年間67名)・スタッフ19名(年間72名)



「放課後子ども教室」は、放課後子どもたちが主体的に自由に遊べる、安心・安全な居場所をつくってきました。「遊び」を通して、子どもにとって一番いいことは何かを考え、子どもたち一人ひとりが育っていく姿をスタッフは見守ってきました。そこには、エネルギーや感情を爆発させ遊ぶ子どもたちのリアルな声や姿があります。

その中で子どもたちがピカリと輝く場面がたくさんありました。特に輝いたのが、子どもたちが放つ「魔法の言葉」です。

魔法の言葉が子どもを変える

「おかえり〜！」次々と放課後子ども教室にやってくる子どもたちをスタッフが迎えると、今日のAくんは、ご機嫌ナナメ！宿題をやっている他の子どもたちの所へ行って、ちよっかいを出して責められています。今度は、ゲームをして遊んでいるグループの所へ行って邪魔をして、怒ったBくんを追っかけられます。

自由におもいきり遊べる場所



いつの間にか遊びに変わり嬉しそうに逃げていますが長続きはしません。みんなと遊びたくてウズウズしているAくんがBくんが言った一言。

「早くしたい！早くしたい！〜と思うでしょ。それってとてもいいことなんだけど、ゆっくりすることも大切だよ。」

「うん。そうなんだよね。」とAくん。受け入れられない苛立ちから物を投げて、スタッフに感情をぶつけることが多いのですが、今日のAくん、それからは、友だちと紙飛行機を作って飛ばし、ダンボールハウスを協力して作って、しっかりと友だちの中に入って遊んでいました。

笑顔がいいね！



1年生で1人だけの参加の男子Cくん、同学年の女子集団と揉めています。

「先生に言っちゃうからね！」

「別にいいよ。」

ムキになってきたCくん、その中の1人の女の子Dちゃんが、「Cくんの笑顔がいいよ！」と言うと思わずニッコリ！その一言で場の雰囲気がガラリと変わり和やかに。

Cくん、それから宿題をしながらも思い出していたのです。



体育館では子どもたちが、集団で長縄飛びをしています。何回続くか数えながら順番に入り飛んでいくのですがEちゃんの番になると引つかかってしまいます。

辛そうなEちゃんにみんなが声をかけます。

「だいじょうぶだよ！」

何度も続けているうちに飛べるようになったEちゃんにみんなが拍手をして喜びました。

特別支援学級のFくんには、みんなの拍手が3回ありました。最初は、1回飛んで抜けることができた時。2回目はその場で続けて2回飛べた時。そして3回目は、続けて3回飛べた時。

「3回飛べた！僕3回飛べたよ！」

最高の笑顔がありました。

そう思ったんだね！

他の人はどうかな？

子どもたちのいわゆる困った行動や言葉に、いつも私たちスタッフは試されていると感じながら対応してきました。

やっではないけないことは厳しく注意するのですが、子どもたちに届かないこともあります。

そんな時、毎回行っているスタッフミーティングで共有していることがあります。まずは、子どもを認める言葉から伝えて、それから真剣に子どもたちに向き合い話をする事。

そんな環境を作っていくと、子どもたちの「魔法の言葉」を何度も聞くことができます。

フリーダイヤル 0120-99-7777



はい チャイルドラインです



開設状況(2013年4月〜2014年3月)
千葉キーステーション
月・水・木曜日午後4時〜7時
火曜日午後4時〜9時
第2・4土曜日午後7時〜9時
市川キーステーション
第1・3月曜日午後4時〜9時
野田キーステーション
金曜日午後4時〜9時
土曜日午後4時〜7時
開設日数 296日 開設時間 1,128時間
着信件数 1,029件 受け手ボランティア 80名
応援・協力 チャイルドライン後援会・ちばのW A地域づくり基金・赤い羽根共同募金の寄付者 市町村教育委員会



「チャイルドライン千葉」は1999年6月に開設して以来、2014年3月までに約9,700件あまりの電話を受けてきました。より多くの子どもたちの声を聴こうと2013年10月には市川キーステーションを新たに開設しました。チャイルドラインという心の居場所には子どもたちのさまざまな思いが満ちあふれています。

あのお：

今日、学校でね、友だちから空気読めないとか、消えろとか言われたんだ。クラスで無視されたりもするし。前はグループに入っていたんだけど。仲間はずれみたいになされて。

一人でもいいかなと思うときもあるけど、やっぱみんなと仲良くやってきたいし。

話できる子は一人はいるよ。慰めてもくれるけど、みんなとうまくやっていく努力が足りないとも言われたんだ。謝ろうかな。どうしたらいい？



どう思います…
親とケンカしたんだ。いちいちうるさくて家出しちゃおうかな。だいたい、自分のしたいことで親に賛成されたことがないし。親は、あんたは大して勉強も努力もしてないし、って言うんだ。ほんとムカつく。自分がいなくなったら心配するかな。まあ、学校も行かせてくれてるし、面倒も見てくれてるけど、でもさ…



クラスでいじめにあってる。
朝、おはようって言っても無視されるし、ネットに悪口が書いてあったんだ。だれが書いたかはわかるけど。
先生に相談したこともあったけどあんまり迷惑かけたくないし言わないつもり…



この頃いろいろ考えてしまつて友人ってなんだろうとか大人になるって怖いなあとか。勉強するつてなんのためとか。お母さんもこの頃変わったねと言うんだ…



こんにちは
ラインで知り合った子と今度の日曜日に会うんだけど、どんな話をすればいいかな。親には内緒。会つてはいけないって言ふから。しつかりして素敵な子だよ。楽しみだなあ…

*電話の内容はかけてきた子どものプライバシーに配慮して、再編集してあります

「はいチャイルドラインです」と言つたら、すぐに話し始める子ども、「あのいいですか」と確かめてから話し出す子ども、「あのさあ、切れちゃったんだけど」、中には、「給料いくらですか」と尋ねてきたり。ラインやネットでの出会いなど現代社会を感じさせる話も多くなつてきている半面、子ども会とか、近所のおじさん、おばさんの話がほとんどできませぬ。子どもの育ちには多様な大人の関わりが必要と言われている。電話でつながる心の居場所とともに、リアルな地域での居場所の存在を願つてやみませぬ。

……………

「ママパパラインちば」は子育て中のママ・パパ・家族の方々からの不安や悩み、喜びに耳を傾け、寄り添つて聴く専用電話です。指導や助言は控え、かけてこられた方の気持ちに温かく共感しながら、肩の荷物を少しでも下ろすお手伝いをしています。子どもをもつ養育者の方々に対しての、子育て応援ダイヤルとして12年の実績があります。電話の受け手は年間20時間の研修を受けている「受け手ボランティア」です。

常設開設日件数

2013年4月5日(金)〜2014年3月28日(金)

午前10時〜午後4時

毎週金曜日延べ日数48日

〔祭日 12月28日〜1月4日を除く〕

全国キャンペーン6日

着信件数 141件 受け手ボランティア23名

応援・協力 賛助・赤い羽根共同募金寄付者・千葉

県小児科医会・歯科医師会・市町村

行政

番号：043-204-9390

**ずーっとがんばっているあなたへ
何でも話してね！ママパパライン**



「はい、ママパパラインです」
「はじめてかけます。何でもいいのですか？」
「こんにちは、はい、何でもどうぞ」
「どうしたらいいですか」
「何かありましたか？どうぞゆつくりお話くださいね」



子どもが言うことを聞いてくれない子どもへのイライラ…

「毎日言うことを聞いてくなくてイライラするのです」
「ご飯もなかなか食べてくれないし、やる事がいっぱいあるのにぜんぜん片付かないんです。怒らないようにと思つてもつい、大きな声をだしてしまつたりします」
「ほんとね、子どもって毎日のことだからイライラしますよね」



自分のことも話したい
自分のことも聴いてほしい

「自分のことでもいいですか」
「幼稚園に入園します。私も友だちができるか気になります」
「今、ママ友との価値観の違いに戸惑つていて、どうつきあつていいかわからないときがあります」
「仕事に復帰しようと思つていますが元のように働けるか不安です」



子育てってたいへん！
グチ言つていい？

「日中は子どもと2人きり。ひきこもり状態です。子どもを産んでからがたいへんで、かわいいと思えない。こんなこと思つてしまう自分が嫌です」
「専業主婦の子育てだから何でも自分でやらなきゃと思うができないと落ち込んでしまっています」
「私は人からどう思われているのか気になります」



夫や家族への不満

「夫の無理解がつらい。本当は夫に一番理解してもらいたい」
「夫は手伝つてくれるが自分の手伝つてほしいものではないのです」
「夫の両親は口出しをしてきて、夫はいいなりです」
「実家の母に子育てを手伝ってもらえない」



話をじっくり聴いてもらつて…

「聴いてもらつてすっきりしました」「もう一度夫と話をしてみます」「大人のひと話せてよかったです」「匿名で何でも話せる場があるってありがたい」

*プライバシー保護のため内容再編集

情報が余りにも多く、却つて不安や悩みが増え、人とのコミュニケーションが取りづらい状況のなかで、ママたちは一生懸命頑張っています。

人は誰でも悩みや不安、グチを否定せず丸ごと受け止め聴いてもらうと、気持ちりが軽くなります。



はじめてのおしばいに出会った子どもたちってすごいね!



0・1・2・3歳の親子におくる
「歌子さんのはじめてのコンサート」

リーフ企画

土気あすみが丘プラザ
協働 千葉市あすみが丘の小児科医
参加人数 乳幼児の親子57人

はじめてのおしばいでは、子どもや親子が、文化芸術に安心して触れられるようスタッフが温かく迎え、安心できる雰囲気をつくりあげています。乳幼児をもつパパやママは、おしばいを観ている子どもの様子や成長をうれしい!と思い、幸せと感じています。親子の愛着形成時期への子育て応援として、芸術の力を活用しています。

わあ〜しゃぼん玉だよ〜ママ!

1曲目「はじめまして」では歌子さんが客席をまわり、お母さんのお膝の上の子ども一人一人の名前を呼んでの挨拶に「〇〇ちゃん、良かったね!うれしいね!」と親子が笑顔でした。「つぎは僕の番かな?」とドキドキわくわく自分の順番を待つ親子。

「しゃぼん玉」の曲では本当にしゃぼん玉が会場を飛び、「わあ〜しゃぼん玉だよ〜ママ!」と思わず声を上げます。

「ほっぺにチュッ」の歌では、肌ざわりの良い布地の「てるてるぼうず」でお母さんのほっぺにチュッとついたり、お母さんにつけてもらったり、思う存分親子でスキンシップして楽しみ、にこにこ笑顔です。

親子で楽しかった〜!
とても幸せな気持ち!



「10か月のわが子が音楽に合わせて手を動かしていました!」まだ小さくてどうかな?と思っていたけど、ごきげんでした!とても幸せな気持ちになりました!「今日は親子で楽しかったです。ありがとうございます!また来たいです」幸せな雰囲気会場いっぱいにあふれています。

児童相談所で暮らす子どもたちに贈る人形劇「スーパ〜あかずきんちゃん」

人形劇団「のはな」

千葉市児童相談所 千葉県中央児童相談所
幼児〜小学生〜中学生〜高校生 49人

スーパ〜のレジ袋が
あつという間に変身して「バックリ」!

カバンの中から普通のスーパ〜のレジ袋を取り出し、あつという間にネコやキツネ等、色々な物に変身しました。「スーパ〜の袋で作れるんだ!」と驚き、前列の幼児の子どもたちは、真剣な顔で見つめています。「はいはい!魔法女!」「正解!」当てた子どもは、得意そうです。最後は「ハエを食べるカメレオン」ができて会場から思わず「すごい!」と歓声があがりました。

肩掛け人形芝居

「あかずきんちゃん」

舞台を肩にかけ、ひとり何役も!「あかずきんちゃん」は、見たことのない形の人形劇です。でも中学生・高校生は「あかずきんちゃん?」「ストーリーは良く知っているし、なーんだという表情でした。ところが、話が進むうちにドンドン引き込まれ大笑いです。オオカミのお腹を切つて助けるところでは「さあ

みんなで助けるよ!みんなハサミの準備はいいかな?」と呼びかけられると、幼児から高校生大人までみんな指でハサミを作つて、腕を高く上げチョキンと一緒に切り、みんなほつとした表情と、まるで自分があかずきんちゃんを助けた気持ちになりました。

はじめて観た! サイコー 最高!

「やり取りしながら一緒にやってくれてとても楽しかった!」人形劇をはじめて観て「はじめて観た!」そして中学生の男子は「最初はつままないと思っていたけどチョー楽しかった。サイコー!最高!」と、子どもたちからの手紙が届きました。

「あれだけ大笑いしたのは何日ぶり?何か月ぶり?何年ぶりなんて子もいるかもしれませんが」と、児童相談所のスタッフの方々にとつても、日頃見せないイキイキした子どもたちを見る機会となりました。

対象者と人数

主に小学生。千葉県文化会館で5つのプログラムを実施。のべ235人が参加

協働

(公財)千葉県文化振興財団と共催

(特)ちば子ども学研究会、(特)千葉中央

おやこ劇場、(特)子どもユニットWakaba、

(特)緑区子どもサポートセンターが実施協力

千葉県学童保育連絡協議会が広報協力

「子どもの舞台芸術体験ひろば」では

子どもがプロの舞台芸術家と出会い、間近で芸や技に触れ、想像力と創造力を働かせ、おもしろい遊んだり、自己表現を楽しむ体験です。

ワクワク!ドキドキ!子どもの舞台芸術体験ひろば

プロの演奏!

おもちゃの交響曲!



「オーケストラの生演奏がすごかった!」と目の前の本物の演奏に感動。12人の楽団員がひとりひとり子どもに寄り添い、子どもたちはだんだん音が出せるようになりました。一つの楽器ができるようになった。他の楽器にもトライ。最後の発表では「おもちゃの交響曲」の打楽器や鳥の声を受け持ち、プロと一緒に真剣なものの大熱演でした。

発想がひろめく 影絵あそび

「失敗はないんだよ」と講師が声をかけると、安心したように絵を書き、ハサミで切り取り、セロファンで色をつけ、スクリーンに映してみます。「影絵はいろんなことができるからおもしろい!」前にいけば小さくなり、うしろへさがれば大きくなっておもしろかった!「つくるときはむずかしかったけど、うつつとスツキリした」と、光と影の不思議さとおもしろさは、子どもたちの発想を次々引き出しました。



自慢したくなるマジックの技

マジックができるようになると一気に「どんなもんだー」の表情になり、「みて みて」と友だちや講師、スタッフにやってみせていました。失敗しても「新しいやり方だね」と講師は子どもがシユンとしないようフォロー。「マジックは演技が大事」という講師の言葉で、子どもたちの気分はすっかりマジシヤン。発表するときには緊張し、観客の子どもたちから「おーっ！」という歓声があがりました。

紙やテープで自由自在、見たことのない生きもののつくり

きれいな色の材料、豊富な品数、見たことのない道具、その豊かさに子どもたちの顔がぱっと明るくなりました。講師の指示で、親・スタッフ・大人の口出しはありません。「自分の好きなようにつくれてよかった」「いろいろ工夫してかわいい生きものをつくれた」。自由に思うままにつくる、他の子どもの作品も参考にしながらアイデアを形にする、その楽しさとワクワク感が体にあふれていました。

子どもたちは、目の前でみるアーティストの演技や演奏を「すごい！」と感じ、自分もやってみたい、でも初めてでできるかな？とあこがれ、緊張、ためらい・色々な気持ちになるようです。できるだけその子のペースで参加できるように、子どもの気持ちを想像しながら、共感的な言葉かけをします。

子どもの笑顔と保護者がホッとするひととき 病気と向き合う子どもが笑顔になる贈り物



対象者と人数

7 病院で18 企画実施
長期入院の子どもたち、保護者、病院関係者 合計767人

協働

武田薬品工業株式会社、(特)市民社会創造ファンド、ドナルド・マクドナルド・ハウス財団、公益財団法人ちばのWA地域づくり基金、(特)子どもNPO・子ども劇場全国センター 地域からのコーディネーター

長期入院の子どもたちに、プロのパフォーマーによる人形劇や音楽を病棟まで届け、病院のある地域に住む講師は、さまざまなワークショップを届けて一緒に工作したり遊んでいます。治療を優先の生活の中でも子どもらしいわくわくした時間に笑顔になり、情緒的ウエルビーイング向上の一役を担っています。

プロの人形劇がやってきた

腹話術で鳥の人形カンクローとパフォーマーのとぼけた会話にクスクスと笑いが起こり、主人公が助かると「よかった！」など思わず声がでて、のけぞって笑っていました。「良い息抜きになった」と付き添いの保護者。主人公に元気をもらったのか、その後スムーズに離床できた子がいたようです。

「プロってすごい！」「入院していて、本物を観られるなんて思わなかった」「入院も嫌なことばかりじゃないなあと思えた」と、子どもも大人も満面の笑みを浮かべ、その場を去りがたい様子をどこの病院でも見ました。

普段と違う表情になった

身心障がい児の病棟で、コンサート。パフォーマンスが『ビリーブ』の歌で出迎える、と、恥ずかしそうな表情をし、知っている歌や素敵な歌声には顔を紅潮させ、手や足を動かす子や一緒に歌う子どももいました。病院スタッフがいつもと違う反応に気づき、「ほら、見て！」「○○ちゃんか笑ってる」「この曲好きなのね」と覗き込むように語りかけています。マンドリンのソロ演奏をシーンと聞き入る姿もありました。病棟に戻っても、うれしくて興奮が続く、なかなか外に出られない子どもたちにとって、いい刺激になり、また付き添う保護者にとっては「癒し」の場になっています。



カンクロー



ナメちゃんのあったかライブ

ワークショップで弾む会話

次に期待する声か

ポケモンの紙折りでピカチュウに鼻毛を書き、「世界でたった一つの鼻毛だ！」と友達に見せて笑い転げる男の子。「全部はじめて作っておもしろかった。もうおわり？」「難しかったけど説明がわかり

やすかった」「弟にも作ってあげたい」「冬もやる？」「もっとやりたい」と意欲的でした。入院していることを忘れるほど遊び、あつという間の時間でした。入院している子どもたちには地域のいろいろな人と出会いの場が大切で、ワークショップ後、病室で子どもたちの交流につながったようです。

大学生の講師とつれい触れ合い

色とりどりの糸の前で友達や講師と「いいね、いいね」「今日の服の色に合わせた」「びったりだね」「○○ちゃんらしい、素敵な色だね」と、時間をかけて選り満足そうでした。ミサンガ作りは、ワイワイと大学生を囲んで盛り上りました。「大丈夫？ガンバ！」の声で一生涯懸命に作り、手首に結んでもらいました。「楽しかった」「最初は大変だったけど、やるうちにどんどんできた、バックに飾りたい」「疲れたけど集中力が向上したような気がした」という声もありました。「自分一人ではやらないことを、友だちと一緒にやらうとする姿があった」と病院スタッフの感想です。

